

「第2回 鳴瀬川総合開発事業の関係地方公共団体からなる検討の場」

「第2回 筒砂子ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」

－ 開催概要 －

- 開催日時 平成23年2月9日(水) 10:00～12:00
- 場所 大崎合同庁舎 1F 大会議室
- 出席者
 - 構成員 石巻市長、東松島市副市長(市長代理)、大崎市長、松島町長、色麻町長、加美町長、涌谷町副町長(町長代理)、美里町長
 - 検討主体 東北地方整備局河川部長(局長代理) 宮城県土木部建設交通局長(知事代理)

● 討議概要

1. 検証対象ダムの概要・点検について

- ・ 農林水産省の新年度メニューの中に田んぼに冬期湛水する環境保全型事業がある。東北農政局の利水回答の必要量には、このような新規メニューまで含めるべきではないか。
- ・ 事業等の点検には、将来的な地球温暖化の要因による集中豪雨やゲリラ豪雨、山林の保水能力の低下等も考えるべきではないか。
- ・ これからの見通しを考えると、難しいかもしれないが、ある程度安全率への反映も必要があるのではないかと感じている。
- ・ 安全率を高めに見過ぎると、設備関係が過大になることが懸念されるため、注意が必要である。

2. 複数の治水対策案の立案について

- ・ 事務局には悪いが、説明をあきれて聞いていた。代替案の設定においては、鳴瀬川の特徴を見失わないで欲しい。長い歴史的な背景があって犠牲と議論の重ねによって、上流にダムを造って危険をカットするという河川整備計画を作ってきた。
- ・ 当地域は、治水と利水が表裏一体の問題であり、切り離しては議論できないとの認識を持っている。

- ・既に策定済の河川整備計画と同程度の目標を対象に、時間を掛けて方策の検討をしていることに疑問を感じる。目標を上回る案を検討するのであればやり甲斐や使命感が沸く。
- ・代替案のメニューを見ると、現在のダム事業廃止ありきと受け取られるのではないか。また、ダム事業廃止となると地域の水との戦いの歴史への冒涇になるのではないかと感じる。
- ・鳴瀬川の特徴は、江合川等を含む水系全体的なネットワークの中で、鳴瀬川だけを守り安全度を確保すれば良いという思想ではいけないと思う。これまでの歴史というものを無視しているのではないかと不安を感じる。
- ・「地域の理解を得られるか」という評価項目を入れないと机上論になってしまうのではないかと考えている。
- ・部分的に低い堤防を残すという案があるが、この流域で安全上大事ではない地域があるのかという疑問を持って聞いていた。どこかが犠牲になるという考え方は歴史的背景から許されず、全体の安全度を高めていくということが前提になくてはならない。
- ・方策については、具体的に議論していくうえで完成年次と全体事業費を出して頂けなければ比較検討できないと考えている。
- ・ダムを整備せずに河道掘削だけで、洪水に対応できるのか。下流域の方々が不安に思うのではないか。そのような案の場合は治水ネットワークそのものの見直しも考える必要が有るのではないかとと思われる。
- ・ダムの有効利用は現実的な判断であると考えている。ただしニツ石ダムは農業用水専用ダムであり、ダムが出来た経緯から治水対策にカウントするという案は非現実的ではないかと思われる。
- ・現実性や可能性があるということで幾つかの案に絞っているが、かなり現実性がない案も無理に並べている印象を受ける。
- ・基本的には、治水および利水の安定的な事業推進には、ダム整備を進めるに優るものはないと思われる。この地域はこれまで洪水・利水ともに大変な状況にあった地域である。
- ・平成19年にようやく河川整備計画が策定され、いよいよ前に進むと住民は期待していたが、また計画が滞ることについて非常に不信感を持っている。
- ・整備計画を担保しグレードを上げた目標の検討が望まれるのではないか。現在考えられている目標では、非常に後ろ向きな印象を受ける。

3. 複数の利水対策案の立案について

- ・ 鳴瀬川流域は豊穡な流域であるが、慢性的な水不足であることが大きな課題であり、利水の面で絶対量が不足していることが特徴である。
- ・ 国営かんがい排水事業の中で農業専用ダムを築造せざるを得ないという背景から二ツ石ダムが築造されている。現在は、国営かんがい排水事業の整備が完了し、負担金の支払いに入っているにも関わらず水が来ない状況であり、整備施設も老朽化が進むことになるので、早く使えるようにすべきである。
- ・ 水が不足していることから、本流域では反復揚水機を8箇所整備している。反復水は水質面での課題があり、同じお金を支払っているのに地域内で不公平感も出ている。
- ・ 利水についてダムの有効活用組み合わせが有効と考えており、「約束した水量をよこしてくれ」という思いが農家の感情である。方策については、必要となる水量を確保できるのであれば、拘るものではないが、ぜひ早期に水量を確保できる案を作って頂きたい。
- ・ 加美町は最上流の町である。ダムは川上だけの話でも、ましてや豊穡な土地を持っている方々だけの話でもない。ダム計画は歴史的文化が詰まったものであるという認識である。
- ・ 2つのダムの地権者会も設立し、町としても地権者会を支援するとともに国・県の仲介をしてきた。現政権の目玉としてダム検証が打ち出されたが、今日もその方針に変わりがないのか、どういう方向に進むのか判らなくなっているのではないかと思われる。
- ・ 様々な方策を比較検討しているのであろうが、これまで関わってきた方々に分かり易く説明できる様な方向を見いだして欲しい。
- ・ 東松島市は最下流の町であり大雨が降る度洪水の危険、不安に駆られてきた。鳴瀬川中流部緊急対策特定区間事業等で配慮頂いているところであるが、方策には現実離れしている案もあり、意外性を感じている。今後十分に取り組んでいく中で、より良い方策を提示して欲しい。
- ・ 現実的かつ地域住民の理解を得られる方策でなければならないと感じている。
- ・ 治水・利水は生命に関わる事柄であり、政権交代等によって方向性が変わるべきものではないという思いである。
- ・ 涌谷町の治水対策上、新江合川の存在が大きな意味を持っている。鳴瀬川の総合開発を検討する中で、新江合川をどのような姿で利活用す

るのかについて検討するとともに、ぜひ計画に取り込んで欲しいと考えている。

4. 今後のスケジュールについて

- ・ 次回検証の場はいつ頃を予定しているのか。年度内に開催して頂く事をお願いします。

(平成 23 年 2 月 18 日 事務局とりまとめ)